



海外旅行を準備しているなら？

麻疹予防の心得 正しく知って予防しましょう！



麻疹の定義と症状

咳またはくしゃみなどの飛沫や空気を通じて感染する感染症で、感染力が非常に強いことが特徴です。

※ 麻疹に対する免疫が不十分な人が患者と接触した場合、90%以上が感染します。

麻疹の主な症状

(潜伏期間 7~21日)

カタル期



感染力が強い時期で、
発熱、咳、鼻水、結膜炎、
口腔内の斑点などが発生

発疹期



首の後ろ、耳の下、体の痛み、
腕や足、
手のひらや足の裏に赤い斑点が発生

回復期



発疹がなくなり、
色素沈着が残る

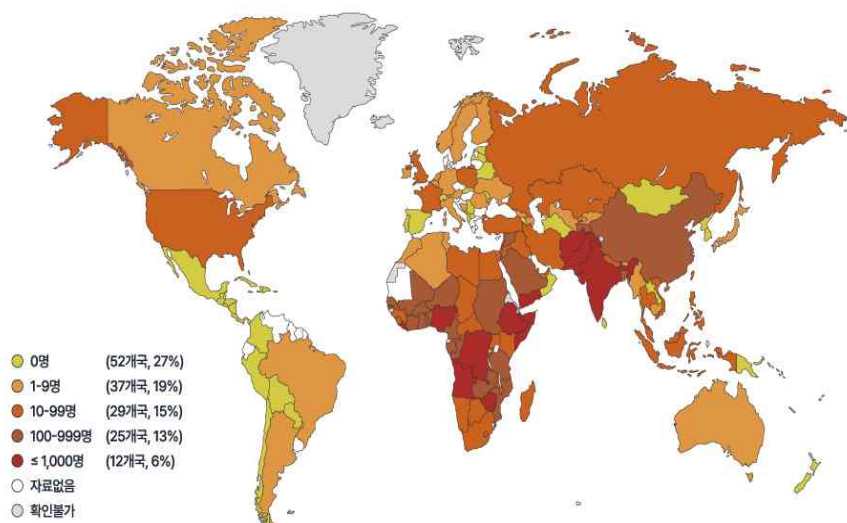
* 気管支肺炎、クループなどの呼吸器疾患、下痢、急性脳炎などの合併症が発生する可能性あり

麻しんの主な発症国

全世界的に麻しん患者の発症が増加*しており、
海外旅行の増加により、
国民が麻しんに感染する可能性がさらに高まっています。

麻しん患者の発症地域の分布

ヨーロッパ、中東、東南アジアを中心に散発的に発症し、流行が持続している状況



* 2023年の全世界での麻しんの発症件数は約30万件(22年対比1.8倍、WHO基準)

海外旅行の際の麻しん予防の心得



旅行前

- ✓ 麻しんの予防ワクチン(MMR)を2回すべて接種したかを確認する
- ✓ 2回とも接種しなかったり接種の有無が確かでない場合には、出国4~6週間前に医療機関を訪問し、4週間隔で2回接種を受ける



旅行中

- ✓ 人が多い場所ではマスクを着用し、手洗い、咳エチケットなどの個人衛生の心得を遵守する



入国時

- ✓ 入国時に発熱または発疹などがある場合、検疫官に知らせる

✦ 入国後に発熱、発疹などの疑わしい症状が 現れた時 ✦



マスク着用及び他の人との接触を最小限にし、医療機関を 訪問
(大衆交通機関の利用を控える)



医療陣に '海外渡航歴' を伝える



✦ 麻しんの予防接種を正しく知る ✦

✦ 年齢別の麻しん予防接種の基準 ✦

年齢	接種方法
生後 0~5ヶ月	接種対象外
生後 6~11ヶ月(臨時接種*) * やむを得ず標準予防接種の日程を守ることができない時や迅速に免疫を獲得しなければならない場合に適用	海外旅行の時に1回接種 * 生後12ヶ月以前のMMR接種は接種回数に含まれないので、その後、標準予防接種の日程に合わせて2回の接種が必要
生後 12~15ヶ月(定期接種)	1回目の接種
4~6歳 (定期接種)	2回目の接種
青少年及び成人*	※免疫に対する証拠がない場合 最小4週間以上の間隔で2回(少なくとも1回)の接種

* 1968年1月1日以前に出生した場合、麻しんに対する自然免疫があるものと判断し、接種する必要がない

※ 麻しんの免疫に対する証拠がない場合

過去に予防接種をした記録がなく、麻しんにかかったことがなかったり、麻しんの抗体が確認できない1968年1月1日以降に 出生した者

2024.4.11.



**海外旅行の前に麻しん予防の心得を確認し、
楽しい旅をお過
ごしてください！**

